

平成 28 年度 第 3 回 東遊園地再整備検討委員会 議事要旨

日時:平成 29 年 3 月 15 日(金)10:00~12:00

場所:三宮研修センター 9 階 902 会議室

議 事

■前回までの振り返りについての委員コメント

- ・ 神戸市は道路のリデザインに取り組んでおり、道路の広場化を進めようとしていることから、東遊園地のリデザインに際しては、道路での短期滞在、公園での長期滞在という視点から役割分担・連携を検討すべきである。従って、検討の順番としては、「周辺事業との連携」から進めるべきであり、市役所 2 号館・3 号館の建替えに関しても、より公益性・公共性を高めるために、東遊園地と公共施設(市役所 2 号館・3 号館)が長期滞在型の場として、また回遊の視点からは目的地として機能するよう検討すべきである。
- ・ ネットワークについては、地区レベル、地域レベル、都市レベルの 3 つのレベルで検討しなければならない。地区レベルでは、三宮駅前から東遊園地、みなとのもり公園までの軸をどうつくっていくかが重要である。地域レベルでは、三宮、元町、ウォーターフロント、旧居留地の面的なつながりの中で、東遊園地のあり方を検討すべきである、また都市レベルでは、新神戸駅、神戸空港、神戸港等、即ち来街者とのネットワークをどうすべきかを検討すべきである。その視点に立って、パークマネジメント、エリアマネジメントを検討しなければならない。

■芝生化実験の報告についての委員コメント

- ・ 芝生化の問題は、エリアマネジメントの視点で検討すべきであり、「えき・まち空間」、みなとのもり公園、東遊園地で行われるイベントのフォーメーションを考える必要がある。第一に防災的な役割、第二に大規模イベントの運営、第三に日常の利用についての視点が重要である。
- ・ 芝生化については、今回の社会実験において全ての技術的な選択肢が検証されている。日常的な利用の観点からは、芝生が良いという事は自明であるが、ルミナリエ等の大規模イベントで集中的な踏圧がされると、芝生の地下茎に大きな打撃があると懸念する。芝生の新規復旧の是非については議論が必要である。
- ・ 東遊園地の場合、ルミナリエ等の大規模イベントの実施や防災上の役割を担う中で、広場を芝生化するという事は、技術的には可能だろうが、費用的な視点からの検討が今後必要で

ある。前回の検討委員会で報告された社会実験の結果から、芝生化が求められているのは自明だが、技術的、コスト的に課題があり、持続可能な方法を検討しなければならない。

■今後の進め方についての委員コメント

- ・ 今後は、公園の管理運営主体のあり方（地域、NPO 団体、市民のネットワーク、民間企業等）と、どういう公園であるべきか（デザインや配置）についての検討が密接に結びつくように進めなければならない。H29 年度は、「賑わい創出・芝生回復実験」と並行して、市民への情報発信及び幅広く意見や案を求めるプロセスが重要である。
- ・ デザインコンペやデザインワークショップを実施するのであれば、東遊園地のハードの形や設計者を定めることを目的とするのではなく、進め方について幅広くアイデア・意見を求める機会とすべきである。例えば、様々な主体（民間企業等）が、東遊園地の運営にどのような形で関与できるかという意見や、東遊園地の可能性（ビジネスや事業を行うために必要な設備と投資等）について意見・アイデアを求めるべきである。
- ・ ハードや運営主体について決定するのが H30 年度を目標とするならば、H29 年度には、方針を決めなければならない。その場合、どのような主体が東遊園地を運営するのが、非常に重要なポイントであり、魅力的な公園とするためには、様々な主体に関わってもらいながら、持続可能な公園運営に対する知恵を幅広く求めなければならない。
- ・ バリエーション豊かなプログラムを東遊園地で継続的に実施するためには、従来の公園管理の枠組みで運営していくのは難しい。ハイグレードな部分については別の位置づけが必要だろうし、場合によっては民間の力も必要である。次年度は、従来の管理のスケールを超える方法を検討しなければならない。
- ・ デザインコンペやデザインワークショップを実施するのなら、公募の内容は、ハードの形だけの提案ではなく、事業的なことを含めるべきである。また、単にアイデア募集というのではなくリアリティのある内容で、あまり事業者よりではなく、景観的な配慮もできるチームで活用アイデアを出してもらうのが良い。設備面と規制緩和がポイントであり、何があれば魅力的な公園になるかというアイデアを募集する内容にすべきである。
- ・ H29 年度中に、社会実験と並行して、デザインコンペやワークショップを行い、パブコメや基本計画を策定するというスケジュールは、性急ではないかを感じる。H28 年度に実施した社会実験については、まだ一部の市民にしか周知されていないと認識しており、いきなりコンペやパブコメ等を実施するのは性急である。次年度は、メンテナンス費用や管理の内容等についても明らかにした上で、社会実験を通して、芝生化についての市民の意向を把握すべきである。
- ・ 公園の管理主体について、アメリカの BID の成功事例は、地域の治安が悪いというマイナス

の状況からスタートしているが、現在の東遊園地はそのような状況ではない。そのため、ブライアントパークのように周辺地域・企業に、公園に対する新たな投資等を求めるのは現実的には難しいと感じる。

- ・ 色々な考え方を反映しなければならないので、現段階ではスケジュールを性急に進める必要はないと感じる。
- ・ 震災当時にまち全体が暗く不安が募る状況において、明るく安心して暮らせる・通勤できるまちづくりを目標として、周辺企業が参集し、まちづくり協議会を立ち上げたという経緯がある。しかし、現在のまちの状況は当時のように悪くない。
- ・ H28年度の社会実験では、東遊園地を若いお母さん等多くの方が利用するようになったという結果がある一方、芝の植え替えに多額の費用がかかる（新聞記事による）という情報もあり、利用者・市民が芝生の利用と費用についてどう感じるか、今後把握しなければならない。
- ・ 葺合南54号線の整備によるにぎわい創出においても、利用者に対する誘導（街灯や案内板）の工夫等、東遊園地と周辺事業との連携の視点をもつことが重要である。その視点で進めると、他地区の理解、費用についての理解も得られると考える。

■再整備の方向性についての委員コメント

- ・ ハード的な魅力よりも、ソフト的な魅力を高めることが目標であり、ファーマーズマーケット等のように、神戸市民が日常的に利用している場であり来街者もそこに行きたいと思うような場をつくることが目標である。従って、イベント等を運営するための設備や、現況のみどりが生育するための植栽基盤、利用のためのルールづくり等、目に見えない部分に投資し、整備すべきである。ハード重視ではなくソフト重視の方向性が重要である。
- ・ 検討の範囲は、空間・構造的な視点から、花時計・市庁舎を含めた範囲で検討すべきである。動線においては、駅や旧居留地との結びつきを高めるために、フラワーロードの歩道部と西側の道路（東町筋）が重要である。また、市役所の建替えに関しては、2号館の低層部は公園のような空間となるように強く認識すべきである。
- ・ 芝生広場の位置は、南側のウォーターフロントの開発との関係性が大きく、開発が進めば、現在は、端に位置するイメージの南側のポジショニングが変わり、中庭的な位置となるであろうことも考慮すべきである。
- ・ 広場を芝生化する場合、現実的には、張替えがローコストな方法であるのだが、エコアップという観点からも、市民の理解は得られにくいだろう。
- ・ 市民が、いかに東遊園地に関わることができるかという視点としかけが重要であり、市民自らがつくるというプロセスも含めて、社会実験で検証すべきである。
- ・ これまで東遊園地で活動を続けてきた方々に、説明がなされていないことは、今年度の社会

実験の反省点である。市民の方々の意見なしに、東遊園地の将来について議論はできないので、今後は関係する方々の意向をきき、計画に反映すべきである。

- ・ 多様なユーザーや利用を想定し、アクティビティにあふれた公園とするために、モザイク状に細分化されている空間を、大きなブロックにまとめるという基本的な考え方は良い。
- ・ 費用を含めた維持管理のサイクルが持続可能なものとなるならば、ブロック1を芝生化するのが一番良いのだろうが、技術的にもコスト的にも課題が多い。例えば、「芝生植え替えをイベント化」「市民をまきこんだ形で実施」「芝生の里親制度」等の考え方もある。一方、芝生広場の配置替え（例えばブロック2やブロック3に芝生広場を配置）をするという案もあるであろう。次年度の社会実験の結果をふまえた上で、利用しやすさ、植物の生育環境、マネジメントやライフサイクルコストの視点からさらなる検討が必要である。
- ・ ただし、モニュメントの吟味と再配置も含め、公園のリニューアル全体を推進するためには、生態系やみどり（剪定等の手入れや間伐）についても色々な方と対話しながら検討し、互いに理解を深めるステップが必要である。そういう意味でも、平成29年度は、色々な方々に発信をし、対話の機会を設けるべきである。
- ・ 今後は、市庁舎を含めた街区をブロック6とし、それに加えて、周辺のまちをブロック7として、そのつながりについてももりこみ、検討を進めなければならない。現在、三宮全体が大きく変わろうとしており、その先陣を切るのが東遊園地である。拙速ではいけないが、最初に変わらなければならない役割も担っており、H29年度は、全体スケジュール（目標年度）も含めて決めなければならない。